## 黙想: 聖霊降臨

黙想のテーマ:「私たちの使命は聖霊によって始まり、聖霊によって前進する」「聖霊は私たちに赦しの賜物を与える」「神の命と力は、聖霊によって私たちに与えられる」。

<u>私たちの使命は聖霊によって始ま</u>り、聖霊によって前進する

聖霊は私たちに赦しの賜物を与える

神の命と力は、聖霊によって私たち に与えられる

聖霊降臨の祭日に、イエスの地上で の使命が終わり、私たちの使命がイ エスの霊によって励まされ、駆り立 てられ、支えられて始まると言える でしょう。私たちは、御父によって 御子に委ねられた使命、つまりイエ スと同じ使命を受け取ります。「あ なたがたに平和があるように。父が わたしをお遣わしになったように、 わたしもあなたがたを遣わす」(ヨ ハネ20・21)。この素晴らしい賜物 に感謝して、キリストの心に燃える 炎、キリストが地上で燃え盛るのを 見たいと願った炎が、私たちの心の 中にも燃え盛るようにと願います。 そしてまた、使徒たちの頭上に現れ た「火の舌」が、私たちの魂にも宿 り、世界の隅々まで広がることを願 います。

この使命を遂行するのに、私たちは 一人ではありません。私たちにはイ エスの約束、つまり、私たちを孤児 にしないという比類ない助けが与え

られています(ヨハネ14・18参 照)。「神の霊が入ってこられると ころでは、恐れが追い払われます。 神の霊によって、わたしたちは、愛 の全能の手で守られていることを知 り、感じることができるようになり ます。何が起ころうとも、神の限り ない愛はわたしたちを見捨てること がありません。殉教者たちのあかし が、信仰における証聖者たちの勇気 が、盲教者たちの大胆な行動が、説 教者たちの自由な心が、青年や子ど もも含む、すべての聖人の模範が、 このことを示しています。教会の姿 そのものがこのことを示していま す。たとえ人間の限界や過ちがあっ ても、教会は神の息吹に促され、す べてを清める神の炎に力づけられな がら、歴史の海を渡り続けるからで すしい。

時々、私たちは自分たちが孤児であるかのように感じることがありますが、その感情が私たちをまひさせる

ことは望みません。それは、神の愛 という良い麦の中に、悪魔が蒔こう としている雑草の一部であること を、私たちは知っています。この感 情が私たちの心に入り込もうとする とき、その感情と契約を結ぶべきで はありません。むしろ、聖霊の助け によって、私たちが神に愛されてい る子どもであることをあらためて考 えるよう、駆り立てられるべきで す。そして聖ホセマリアとともに、 私たちは神の恩寵の絶え間ない流れ に入りたいと願います。 | 私にとっ て、栄光は愛です。それはイエスで あり、イエスとともにある御父、私 の御父、そして私を聖化してくださ る御方一聖霊です」[2]。三位一体の 神が私たちの心に注いでくださる愛 の中に、私たちはすべての恐れと心 配に対する解決策を見つけることが できます。

おそらく私たちは、母親の腕から父 親の腕へと初めて自分の足で歩こう としたとき、どのようになるか予測 できなかったでしょう。なぜなら、 今までにしたことがなかったからで す。しかし、成功のご褒美として両 親に抱きしめてもらったとき、私た ちはリスクをとる価値があったのだ と感じたでしょう。今、聖霊に、私 たちの意志を燃え上がらせ、世界に 平和と喜びの種を蒔くという、神聖 な願いで心を満たしてくださるよう にお願いすることができます。祈り の中でこそ、私たちは神の声を聞 き、神聖な冒険に出発する力を得る ことができます。「祈りは私たちが 無償で受け取る贈り物であり、 聖霊 のうちに神と対話します。聖霊は、 私たちの内で祈り、私たちが神に話 しかけ、神を『父』、『お父さ ん』、『パパ』、『アッバ』と呼ぶ ことをゆるしてくださるのです (ローマ8・15、ガラテヤ4・6参 照)。これは単なる表現ではなく、

現実です。私たちは真に神の子です。 『神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです』 (ローマ 8・14) | เช]。

時々、私たちは無意識のうちに、私 たちの罪や裏切りが原因で、神が私 たちから遠ざかられたように生きる 誘惑に、駆られることがあります。 しかし、神の私たちの弱さに対する 反応は、常に私たちを驚かせます。 「復活されたイエスが初めて弟子た ちに現れたとき、彼らにこう言われ ました。『聖霊を受けなさい。だれ の罪でも、あなたがたが赦せば、そ の罪は赦される』(ヨハネ20・ 22-23)。イエスは受難の際に、自 分を見捨て否定した弟子たちを罪に 問うことなく、むしろ赦しの聖霊を 彼らに与えられました。聖霊は復活 された主の最初の賜物です。特に罪 の赦しのために与えられました。こ こに私たちは教会の始まり、私たち を結びつける接着剤、家のレンガを

結合するセメント、つまり『赦し』を見いだすことができます。赦しは最高の賜物であり、最も偉大ぎであり、崩壊を防ぎを一致させ、崩壊を防ぎが、合し、強化します。赦しは私たちとも自由にし、新たに始めることを可能にします。赦しは希望を与上げる。赦しがなければ教会は築き上げられません」四。

聖霊は、私たちが与えられた使命を、喜びをもって遂行できいといって送行したいをもって満たしたい神のといった。聖ホセマリアは、なかを取りを持たなかを取ります。「信仰します。「信仰します。「信仰します。「は、これを強します。」というでは、ないないないない。私も神を愛していないものである。私も神を愛していないものである。

錯した『信念』こそが、心を破壊し、生理的な反応も含めて、心を虚無感で満たしてしまいます」。

幸いなことに、解決策は誰にでも手 の届くところにあります。「では、 今日は、真の変化が必要なときに何 をすべきかを学びましょう。私たち の中で変化を必要としない人がいる でしょうか?特に、私たちが落ち込 んでいるとき、人生の重荷に疲れて いるとき、自分の弱さに圧倒されて いるとき、前進し続けることが難し く、愛することが不可能に思えると き。そのような時には、私たちは強 力な『回復剤』、つまり聖霊、神の 力が必要です。信条の祈りの中で、 私たちは聖霊が『いのちの与え主』 であると告白します。このいのちの 回復を毎日感じられたらどんなに素 晴らしいでしょう。 毎朝目覚めると きに、『聖霊よ、来てください、私 の心に来てください、私の一日に来

てください』と言うことができた ら | rsi。

リジューの聖テレジアは堅信式の日 について次のように述べています。 「なんという喜びでしょう!使徒た ちと同じように、私も聖霊の到来を 喜びをもって待ち望みました…。最 初の聖霊降臨の強風は感じませんで したが、預言者エリヤがホレブ山で 聞いた穏やかなそよ風を感じまし た。その日、私は苦しみに耐える勇 気の賜物を受け取りました。それ は、私が痛みを受けるために切に必 要としていた賜物です。私の魂の殉 教が間もなく始まるのです | トァェ。 私 たちもまた、魂の慰め主である聖霊 に耳を傾けたいと思います。

「『わたしはあなたたちを孤児にはしません』。聖霊降臨の祝日の今日、イエスのこの言葉は、高間におられるマリアの母としての存在も思い起こさせます。イエスの母は、祈

りに集まった弟子たちとともにおられます。マリアは御子の生きた記憶であり、聖霊の生きた呼びかれてです。私会の母です。私の野間、弁護者である聖霊、慰め主である聖霊、真理とといるすべてのキリスト信者、別ないるすべてのキリスト信者、別ないるすべてのキリスト信者、別ないるなます」。

[1] ベネディクト十六世、説教、 2009年5月31日。

[2] 聖ホセマリア、内的覚書、 1653-1655番.

[3] フランシスコ、説教、2014年6月 8日。

[4] フランシスコ、説教、2017年6月4日。

[5] 聖ホセマリア、フランシスカ・ハビエラ・デル・バージェ『聖霊への十日間の祈り』(Francisca Javiera del Valle, Decenario al Espíritu Santo)の余白に書き記したメモ。

[6] フランシスコ、説教、2018年5月20日。

[7] 幼きイエスの聖テレジア「原稿 A」4章、36。

[8] フランシスコ、説教、2016年5月15日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-seirei-kourin/(2025/12/15)